

中島邦雄* 琉球新産のヒメラン属1種

Kunio NAKAJIMA* : *Malaxis Matsudai* (YAMAMOTO) HATUSIMA,
New for the Ryukyus.

Malaxis Matsudai (YAMAMOTO) HATUSIMA, comb. nov. with fig. 1~3
Microstylis Matsudai YAMAMOTO, in Suppl. Ic. Pl. Formos. 2 (1926) 4, fig. 2.;
MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. ed. 2 (1931) 1659; MASAMUNE, Short Fl.
Formos., (1936) 296; MASAMUNE, List Vascul. Pl. Taiwan (1954) 163.

Nom. Nipp. : Matsuda-himeran (Y. YAMAMOTO, 1926).

Hab. : Ryukyus; Okinawa, Prov. Kunigami (Yanbaru) (anno, 1923. M. OGATA,
TI), in sunny grass field (*Imperata cylindrica* var. major C. E. HUBB.)
on old wayside near the open forest of northern west side of the Mt.
Henoko-dake, (Nov. 22 and 25, 1969. NAKAJIMA ! in Herb. NAKAJIMA).

Dist. : Formosa and Ryukyus (Okinawa Isl.).

New for the flora of the Ryukyus.

1969年10月末頃、著者は沖縄本島国頭の山地(open forest)路傍のチガヤ中に果実を着けた1株のランを、偶然見つけた。その時は果実が少し若かったので、その株は採集しなかった。それから約1ヵ月位して、自生地を調べた結果、前回の株の外に、数花着けた2株を幸運にも得る事が出来た。最初、果実の株を見た時は、一見して *Liparis* 属のジガバチソウ類に近いものではないかと思っただけで、花の株をみてから、それが *Malaxis* 属の1種であった。当時手許に資料の不備もあって、種名が分らなかったところ、国立科学博物館の大井次三郎博士に、花のある生品を送り、同定を願った結果、マツグヒメランと判明した。また、大井博士の進言で、更に自生地より得た生品を鹿児島大学農学部、初島住彦博士に送った。同博士は学名を *Malaxis* 属に新組合せすべきとのご意見を添え、また、原記載を恵与下さった。もちろん、マツグヒメランは琉球より初品であるので、ここに報告をして読者諸賢の参考としたい。

ところで、沖縄本島に *Malaxis* が産することは坂口総一郎(1924)および正宗巖敬(1964)らの報告がある。坂口は Gen. Ind. Fl. Okinawa, p. 81, に沖縄本島国頭より *Microstylis congesta* (LINDL.) REICHB. fil. ホザキヒメランを記録しているが、今となつてはその標本を検討することが不可能である。*Microstylis congesta* は E. Nepal, Sikkim, Khasia, Deccan, Ceylon, Andaman Isl., Australia, Thai, Malaysia, Hongkong, Formosa それに S. Ryukyus (Yonaguni, Iriomote and Ishigaki Isls.) に分布する *Malaxis latifolia* SMITH (Syn. *Microstylis kizanensis* MASAMUNE) キザンヒメランの異名であり、キザンヒメランは今日まで国頭より採集された事実はない。キザンヒメ

* 沖縄県名護市宇茂佐111番地

111, Umosa, Nago, Okinawa Prefecture.

ランの琉球での北限は、八重山群島の石垣島であり、それより北にはおそらく分布の可能性は薄いと思われる。私は坂口の報告した *M. congesta* は、原標本のない今ではそれと決めつける根拠にはなり得ないと考え、永久に分らない事であろうが、それは



Fig. 1. *Malaxis Matsudai* (YAMAMOTO) HATUSIMA ; Flowering plant in natural habitat (× ca. 1.0) photo. by Kunio NAKAJIMA, Nov. 25 th, 1969.



Fig. 2. *Malaxis Matsudai* (YAMAMOTO) HATUSIMA. a ; Potted (same) plant of fig. 1. (\times ca. 0.8). b ; Flowering scape (\times ca. 3.0). c ; A enlarged flower of the same (\times ca. 6.0). Photo. by Kunio NAKAJIMA, Nov. 25 th, 1969.

今回報告する *Mal. Matsudai* ではなかったかと考える。正宗の Enum. Trach. Ryukyu Ins. (X)¹ (1964) には、おそらく坂口の報告から引用されたものか、*Microstylis* が沖縄本島に産することを?で示してある。

幸い、東京大学理学部の標本室に入れられている *Microstylis Matsudai* YAMAMOTO の typus と一致する沖縄からの、一枚の標本がある。ラベルに1923年 M. OGATA (緒方正資) 沖縄本島山原とあり、花色や産地などの細かい事をそれから知るよすがもないが、おそらく本部(モトブ)半島の嘉津宇(カツウ)岳近辺から採られたものではなからうか。なぜなら、嘉津宇岳は沖縄を訪ずれるたいていの採集家の一目的地ともなり、私自身はまだ確認していないのだが、沖縄植物学界の大老、園原咲也氏によれば、その附近には *M. Matsudai* と思われるものがあるから、今のところ他の場所を想像するより容易かも知らない。おそらく、沖縄においては山地(open forest 以外の場所)には(今回採集した自生地の環境から察して)産しないのではないかと考えられる。また、今回の発見で、マツダヒメランの分布が八重山群島を飛び越して沖縄本島北部に分布している事実は、台湾に産する *Liparis viridiflora* (BL.) LINDL. コゴメキノエランや *Bulbophyllum affine* LINDL. クスクスランが、沖縄を飛び越え奄美に分布しているように、植物地理学上このようなラン科植物の隔離的な分布の要因も面白く、また興味をそそられる。

マツダヒメランの特徴を次に記しておく。

茎は直立、高さ5~25cm, pseudobulbs は1年ごとに更新して、一茎に5~8枚の葉を着ける。葉は、長さ2~10cm, 幅24~37mm, 最小葉の長さ12mm, 幅9mm, 表面は光沢のある草緑色、3~5脈があり、縁は滑らか、質はイリオモテヒメランやキザンヒメランよりも薄い。花茎、長さ3~17.5cm, 帯紫色。花柄下方に普通1枚(長さ2~20mm, 幅0.5~2mm)の鱗片葉がある。



Fig. 3. Fruits of *Malaxis Matsudai* (YAMAMOTO) HATUSIMA. (× ca. 4.0) photo. by Kunio NAKAJIMA, Nov. 25 th, 1969.

苞, 長さ4~10mm, 幅1~3mm。花, Chestnut-red (濃紫紅色), 直径5~10mm, 花茎の上方に10~25個ぐらい着ける。さく果, 長さ7~10mm, 幅3~7mm。花柄, 長さ1~3mm。残存ずい柱, 長さ1~2mm。その他の特徴は図および原記載を参考としてほしい。

なお, 大井博士の私信に「貴君の送られたものは原記載よりも花が大きく, 唇弁の裂け方も深い。それは山本博士が乾燥標本を基に, 記載されたものと思う」とそえられている。

これで日本の *Malaxis* (ヒメラン) 属は, 琉球からの *Malaxis latifolia* SMITH (Syn. *Microstylis kizanensis* MASAMUNE キザンヒメラン, *Mal. roohutuensis* (AMES) NAKAJIMA (Syn. *Microstylis iriomotensis* MASAMUNE) イリオモテヒメランと今回のマツダヒメラン, 小笠原の *Mal. boninensis* (KOIDZUMI) NAKAJIMA シマホザキランとそれに *Mal. paludosa* (LINN.) SWARTZ ヤチランと *Mal. monophyllos* (LINN.) SWARTZ ホザキチョウランの計6種となる。

終りに, 本研究を行なうのに当って, ご教示をいただいた大井, 初島の両博士はじめ, 標本の閲覧を快諾下さった東京大学理学部植物学教室標本室ならびに山崎敬, 大橋広好の両氏の方々に厚くお礼を申し上げる。